

1. 感謝板倉聖哲、Shi-ye Liu, Cherry Wong, 李仁淵、植松瑞希、黃士珊、盧慧紋、朱龍興、李丹婕所提供的資訊。
2. 目前原則上固定於每周五寄發，包括展覽、演講、會議議程與徵文、網路資源、研習營等訊息，歡迎大家多多貢獻資訊。
3. 若有與中台藝術史或文化史相關的研究、演講、展覽、或會議之訊息，不論來自何地，都歡迎提供，我會將之轉給大家。雖然未必能與會，分散於天涯海角的我們卻可對各地情況有所瞭解。
4. 最新訊息以紅色標示，內容包括中(Big5)、英、日文(IME)碼。
5. 本期更新：**展覽、演講、研討會、工作坊**、call for paper, 網路資源。
6. 如有其他同好對此電子報有興趣，請告知電子郵件地址，我將加入寄送名單中。若不願收到，也請告知，以方便作業。

展覽：

■台灣

1. 國立故宮博物院
2. 故宮南院
3. 中央研究院歷史語言研究所歷史文物陳列館
4. 高雄科學工藝博物館
5. 台灣大學圖書館
6. 國立清華大學圖書館

■亞洲

1. 首都博物館
2. 中國國家博物館
3. **浙江省博物館**
4. 廣東省博物館
5. 江西省博物館
6. 上海龍美術館
7. **故宮博物院**
8. **香港藝術館**
9. 東京國立博物館
10. 奈良國立博物館
11. **京都國立博物館**
12. 大阪市立東洋陶瓷美術館

13. 大和文華館
14. 立命館大学国際平和ミュージアム

■ 歐美

1. Nelson-Atkins Museum
2. Los Angeles County Museum of Art
3. The Metropolitan Museum of Art
4. SF Asian Art Museum
5. Freer/Sackler
6. Huntington Library
7. Musee Guimet
8. China Institute

台灣

1. 國立故宮博物院
 - 1) 公主的雅集：蒙元皇室與書畫鑑藏文化
展期(Dates)：2016/10/06~2016/12/26
陳列室：北部院區 展覽區一 202, 208, 210, 212
 - 2) 筆有千秋業
2016/10/01~2016/12/25
展覽區 204/206
 - 3) 名品聚焦-吳鎮墨竹譜
2016/10/01~2016/12/25
展覽區 202
 - 4) 若水澄華-院藏玻璃文物特展
展期：2016/08/31-
北部院區 展覽區一 304
 - 5) 華夏藝術中的自然觀－唐獎故宮文物選萃特展
展期：9月22日 - 12月22日
地點：國立故宮博物院
 - 6) 集瓊藻－院藏珍玩精華展
展期：常設展 2014/08/01~

陳列室：展覽區一 106

<http://www.npm.gov.tw/zh-TW/Article.aspx?sNo=04005700>

7) 源頭活水來—宋遼金元玉器展

展期：2014/11/29~

陳列室：展覽區一 304

<http://www.npm.gov.tw/zh-TW/Article.aspx?sNo=04005847>

8) 皇帝的鏡子—清宮鏡鑑文化與典藏

2015-2017/2/26

陳列室：303

2. 故宮南部院區

1) 佛陀形影—院藏亞洲佛教藝術之美

常設展

S303 佛教藝術展廳

2) 芳茗遠播—亞洲茶文化展

常設展/ S202 茶文化展廳

<http://south.npm.gov.tw/zh-TW/NormalExhibition>

3) 錦繡繽紛—院藏南亞織品展

展期：2015-12/28-2016/11/16

陳列室：S304 織品文化展廳

4) 「日本美術之最：東京國立博物館暨九州國立博物館珍藏展」

105年12/10至106年3/5

包括日本繪畫、佛教雕刻、陶瓷、漆器、圖書、文獻等約150組件，其中含日本國寶、重要文化財、重要美術品計68件。亦有多件中國藝術品。展覽說明與展件清單請見：

http://jpartm.npm.gov.tw/list.php#_sec0

3. 中央研究院歷史語言研究所歷史文物陳列館

1) 縈青繚白—安陽隋唐墓瓷器特展

展期：2016年10月29日起

展區：二樓特展區(207室)

http://museum.ihp.sinica.edu.tw/exhibition_detail.php?id=45

4. 高雄科學工藝博物館

秦·俑—秦文化與兵馬俑特展

2016/09/15-12/18

<http://www.nstm.gov.tw/exhibition/exhibitionlist.aspx>

5. 台灣大學總圖書館

「明清時期民窯青花瓷特展」

展期：2016.09.22-12.22

地點：國立臺灣大學總圖書館一樓中廳

6. 國立清華大學圖書館

天工巧手·穿越古今—國立清華大學書畫藏品修復展

2016/11/23-30

亞洲

1. 首都博物館

大元三都

2016/09/09-12/09

一層 B 展廳

http://www.capitalmuseum.org.cn/zlxx/content/2016-09/02/content_63556.htm

http://mp.weixin.qq.com/s?__biz=MTEExNTQ5NDc4MQ%3D%3D&mid=2656718142&idx=1&sn=d1be80a5516862e9e4509cafe3c5156c&scene=2&srcid=0909FGWji3TZqA2x0G0Umjzr&from=timeline&isappinstalled=0#wechat_redirect

2. 中國國家博物館

東方畫藝——15 至 19 世紀中韓日繪畫

展期：2016/11/5 - 2016/12/18

地點：國家博物館 南 14 展廳

主辦：中國國家博物館，韓國國立中央博物館，東京國立博物館

“東方畫藝——15 至 19 世紀中韓日繪畫展”，由中國國家博物館、韓國國立中央博物館和日本東京國立博物館三館合作舉辦，是第九屆“中韓日國家博物館館長會議”期間的一次重要活動，也是中國國家博物館國際交流系列展覽的又一個重要項目。展覽從三館的藏品中分別精心挑選了中國明清時期，韓國朝鮮王朝時期，以及日本室町、江戶和明治時期的文人畫、風俗畫和佛教畫作品共計 52 件（套），展覽主題鮮明，展品內容豐富，在向觀眾介紹三國繪畫名作的同時，既顯示了各國繪畫的民族特色，又展示了相互的關聯和影響。

http://mp.weixin.qq.com/s?__biz=MjM5NDc4MQ%3D%3D&mid=2653000948&idx=1&sn=af94c052a106340a043ebd815172010a&chksm=bd5834878a2fbd91454761212d33a479df15cd67e787bcad70d761ce9151f758c296f75460b6&scene=0#wechat_redirect

3. 浙江博物館

1) 漂海聞見·15 世紀朝鮮儒士崔溥眼中的江南

展覽時間:2016-11-16—2017-02-12

展覽地點:武林館區地下一層展廳

明弘治元年(朝鮮成宗十九年,西元 1488 年)正月,朝鮮官員崔溥在渡海返裡途中遭遇風浪,漂海 13 天后,在中國浙江台州府臨海登岸。隨後沿運河一路北上,再經陸路返回朝鮮,歷時 135 天,成為明代時行經運河全程的第一個朝鮮人。崔溥回國後,奉王命撰寫遊歷日記,是為《漂海錄》。其所錄內容,涉及明弘治初年政治、軍事、經濟、文化、交通以及沿途史地文物、名人古跡、市井風情等情形,成為研究明代社會及中韓交流的重要史料。

此次展覽是以《漂海錄》為基礎,通過展陳對《漂海錄》作延伸性的解讀。

與以往展陳不同,這次展覽將尋訪崔溥蹤跡作為展覽的重要一部分,尋訪的重點側重於崔溥在浙江的行蹤,尤其是浙東運河部分。今年 3 月 31 日發佈的《2016 年中韓人文交流共同委員會交流合作項目名錄》,把“跟隨崔溥足跡·2016 中韓人文紐帶構建活動”納入了中韓人文交流合作項目。隔著 500 多年的光陰,尋找崔溥筆下的遺跡,感受滄海桑田的變幻。尋訪過程將以記錄片的形式呈現給觀眾。

崔溥來到中國後,十分留意觀察各地不同的風物民情,由於明代使臣很少能到達長江以南地區,因此崔溥對江南地區的記述更為細緻,為了更直觀的理解崔溥的記述,展覽中還將展出嘉興、桐鄉、常州、江陰等地明墓出土文物,如嘉興王店李家墳明墓出土絲織服裝,常州武進王洛家族、江陰青陽鄒令人墓出土金銀首飾等。

展覽由中韓兩國博物館合作完成,兩國參展博物館達 26 家,共計展品 300 餘件(組)。浙江省博物館藏的清康熙時期繪製的《京杭道裡圖》,描繪京杭大運河流經城池及兩岸景觀,全長 2032 釐米,將在展覽中首次全卷完整展示。韓國中央博物館藏的奉使朝鮮唱和詩卷,是明代使臣倪謙與韓國文臣詩文唱和的手跡,文物本身便是兩國文化交流的象徵物,在韓國屬於國寶級文物,此次將首次來華展出。

http://www.zhejiangmuseum.com/zjbgw/exhibition/zt_detail.html?pid=195&zltype=1

2) 瑞象重明——雷峰塔文物陳列

展期:2014-11-27—2016-11-30

<http://www.zhejiangmuseum.com/showexhibition.do?status=detail&id=132>

4 廣東省博物館

1) 薈雅南州——明代廣東文人的藝術與生活

展出時間:2016-9-9 至 2017-2-28

展出地點:三樓展廳三

2) 相看兩不厭——館藏明清瓷畫與繪畫的對視

2016-10-25 至 2017-2-26

展出地點：三樓展廳一

5. 江西省博物館

海昏侯國考古成果展

2016/10/11--

6 上海龍美術館

敏行與迪哲—宋元書畫私藏特展

10月28日起到2017年3月31日

80餘件早期書法、繪畫、古籍善本珍品

由劉益謙、王薇夫婦所共同創辦的中國上海「龍美術館」，於「西岸館」，舉辦「敏行與迪哲—宋元書畫私藏特展」，展品包括80餘件宋元書法、繪畫、古籍善本等珍品。主辦方表示，其中有約一半是來自龍美術館本身的館藏，另一半則來自海內外20餘位藏家。

展品有許多都是近年來陸續現身於各地拍場的高價作品，如東晉王羲之〈草書平安帖卷〉、〈唐后行從圖軸〉、北宋蘇軾〈功甫帖〉（立軸）、北宋曾鞏〈局事帖冊頁〉、北宋徽宗〈寫生珍禽圖卷〉、南宋蕭照〈瑞應圖卷〉、南宋馬遠等〈宋帝命題馬遠繪山水冊頁〉、南宋朱熹與張景修等〈宋名賢題徐常侍篆書之跡卷〉、元代林子奩（即台北故宮藏〈元人集錦卷〉作者之一的林卷阿）〈鬪風圖卷〉、元末明初宋克〈章草急就章卷〉等書畫作品；以及北宋古籍刻本《西湖結蓮社集》等。

展覽子題區分有「帝制文心」、「恪悟教禮」、「隱逸修身」、「尚意求道」四部分，企畫以12個章節來表現「敏行聖人之道」，即千年以來中國的私人收藏傳統。

7 故宮博物院

1) 明清御窯瓷器: 故宮博物院與景德鎮陶瓷考古新成果展

2016.10.25-2017/2/26

2) 梵天東土 並蒂蓮華: 公元400年-700年印度與中國雕塑藝術大展

2016/9/28-2017/1/3

8. 香港藝術館

石渠寶笈之香江拾遺 — 香港藝術館虛白齋書畫藏品展

Lost Treasures of the *Shiqu Baoji* in Hong Kong — Selection of Chinese Paintings and Calligraphies from the Xubaizhai Collection, Hong Kong Museum of Art

2016.11.30 – 2017.3.20

地點：香港文化博物館一樓趙少昂藝術館

Venue: Chao Shao-an Gallery, 1/F, Hong Kong Heritage Museum

《石渠寶笈》是清代乾隆時期宮廷收藏的書畫著錄。自滿清覆亡，這些寶藏很多均已散落民間或佚失。展覽將展出香港藝術館虛白齋藏13件與《石渠寶笈》相關連的書畫作品，展覽亦會

介紹《石渠寶笈》內容，以及上世紀初故宮文物經香港流散至世界各地的歷史，藉以檢視香港過去在收藏及保存中國文物的角色。由於香港藝術館現正閉館進行擴建及更新工程，展覽將於香港文化博物館展出。

Shiqu Baoji was the name given to the catalogues of the Qing dynasty imperial collection of Chinese paintings and calligraphy during the Qianlong period. Many of the works recorded in the catalogues are now scattered or lost due to the social unrest, wars and theft that accompanied the demise of the Qing dynasty. This exhibition features 13 works selected from the Xubaizhai Collection that were previously in the imperial collection. The exhibition also highlights the significant role of Hong Kong as refuge and in conservation of China's cultural heritage during the last century. As the Hong Kong Museum of Art is temporarily closed for a major renovation project, this exhibition will be staged at the Hong Kong Heritage Museum.

9. 東京國立博物館

1) 博物館でアジアの旅

東博（トーハク）×上博（シャンポー）夢のコラボ！

http://www.tnm.jp/modules/r_event/index.php?controller=dtl&cid=5&id=8543

2) 臨濟禪師 1150 年・白隠禪師 250 年遠誼記念 特別展「禅—心をかたち—」

2016/10/18-11/27

水墨画や茶の湯は、禅とともに中国から伝わり、やがて日本文化の核にまで成長しました。この展覧会は、臨濟宗・黄檗宗の本山・末寺から名宝を一堂に集め、禅の歴史、禅の美術、禅の文化を通覧しようとするものです。高僧の肖像と墨蹟、仏像・仏画、工芸、障壁画など、禅の至宝を通じて、日本文化に果たしたその役割をご覧ください。

10. 奈良國立博物館

1) 第 68 回 正倉院展

平成 28 年 10 月 22 日（土）～平成 28 年 11 月 7 日（月）

本年は聖武天皇ゆかりの屏風や水差しなど、華やかな宮廷生活を想像させる宝物が出陳されます。また法会の場を飾った巨大な幡やその脚などの部材、装飾に用いられた金具類がまとめて展示されるのも注目されます。

http://www.narahaku.go.jp/exhibition/2016toku/shosoin/2016shosoin_index.html

2) 珠玉の仏たち 〈なら仏像館〉

平成 28 年 6 月 28 日（火）～9 月 19 日（月・祝）

（本館）の名品展「珠玉の仏たち」では、飛鳥時代から鎌倉時代に至る仏像を中心として日本周刻、およびその源流ともいえるべき中国の諸作品を幅広く紹介します。

11. 京都国立博物館

開館 120 周年記念 特別展覧会「国宝」

2017 年 10 月 3 日（火）～ 11 月 26 日（日）

京都国立博物館 平成知新館

2017 年は、日本の法令上「国宝」の語が初めて使用された「古社寺保存法」制定より 120 年にあたります。当館開館と軌を一にするこの節目の年に、昭和 51 年（1976）に「日本国宝展」を開催して以来、実に 41 年ぶりとなる「国宝展」を開催します。

古より我々日本人は、外来文化を柔軟に取り入れつつ、独自の美意識によって世界にも類を見ない固有の文化を育んできました。歴史的、芸術的、学術的に特に優れ、稀少である国宝は、何よりも雄弁に我々の歴史や文化を物語る、類い希なる国の宝といえましょう。

本展覧会では、絵画・書跡・彫刻・工芸・考古の各分野から、歴史と美を兼ね備えた国宝約 200 件を一堂に会し、わが国の悠久の歴史と美の精華を顕章いたします。

12. 大阪市立東洋陶磁美術館

台北 國立故宮博物院—北宋汝窯青磁水仙盆

2016/12/10-2017/03/26

本展では、中国北宋時代（960～1127）末に宮廷用の青磁を焼成した汝窯を代表する青磁水仙盆の名品をご紹介します。汝窯は「天青色(てんせいしよく)」とも形容される典雅な釉色と端正な造形を特徴とします。

今回、台北の國立故宮博物院から、汝窯の最高傑作であり、中国陶磁の名品中の名品といわれる「青磁無紋水仙盆」をはじめとした北宋汝窯青磁水仙盆 4 点と、さらに清朝の皇帝がその「青磁無紋水仙盆」を手本につくらせた景德鎮官窯の青磁水仙盆 1 点が初めて揃って海外に出品されます。そして、日本を代表する汝窯青磁である当館の青磁水仙盆と歴史的な「再会」が実現します。汝窯青磁を代表する青磁水仙盆の名品が初めて一堂に集う本展は、千載一遇の機会です。青磁水仙盆の名品を通して、歴代の皇帝たちが愛した汝窯青磁の美の真髓をご堪能下さい。

<http://www.moco.or.jp/exhibition/upcoming/?e=366>

13. 大和文華館

1) 特別展 吳越国 - 西湖に育まれた文化の精粹 -

2016 年 10 月 8 日（土）～11 月 13 日（日）

吳越国は 907-978 年に、現在の中国浙江省杭州市を中心とした領土を納めた国です。吳越国が位置した江南は資源に恵まれた豊かな土地で、新石器時代には玉文化を誇る良渚文化、漢時代以降は青磁の焼造で名高い越州窯があるなど、古来、高い文化と工芸技術が育まれてきました。唐時代になると、明州（現・寧波市）は日本を含めて海外からの船が往来する海港都市となり、海上交通の要衝となります。また、鄞県阿育王寺（現・

寧波市鄞州区)は江南における釈迦・舍利信仰の中心地であり、唐の天宝三年(744)に鑑真が日本への渡航中に立ち寄り、地中から感得されたという阿育王塔を目にしています。さらに、天台仏教の聖地である天台山があり、江南は仏教の盛んな地域でした。呉越国を治めた銭氏一族はこのような特色を受け継いでいます。また同時に、海外である日本や朝鮮半島の高麗、中国北方の遼などと仏教を介した交流を行い、東アジアにおける文化交流に大きな役割を果たしました《

本展では、中国浙江省博物館及び臨安市博物館から美術的・学術的に高い価値を持つ仏塔と王族墓からの出土品を中心とした多くの作品を拝借し、日本に伝わる呉越国関連作品とともに展示します。日本で呉越国に焦点をあてる初めての展覧会であり、その文化・芸術の東アジアにおける位置付けを試みます。

第一章 呉越国と西湖			
	西湖図 如寄筆	室町	京都・天寧寺
	銭繆六十六歳銀簡	五代 呉越国	浙江省博物館
第二章 呉越国の工芸 - 金銀製品、陶磁器、玉製品 -			
	青磁合子 越州窯	水丘氏墓出土(唐)	臨安市博物館
	白磁「新宮」銘銀鈿輪花皿 定窯	水丘氏墓出土 唐	臨安市博物館
	白玉製鳳凰唐草文簪・銀 製鍍金花文簪金具	康陵出土 五代 呉 越国	臨安市博物館
第三章 呉越国の仏教事績			
	銀製阿育王塔	雷峰塔天宮出土 北宋 呉越国	浙江省博物館
	「饒益神宝」銅錢	雷峰塔地宮出土 平安	浙江省博物館
第四章 呉越国の余波 - 東アジアの中で -			
国宝	版画 弥勒菩薩図 木造釈 迦如来立像納入物		京都・清凉寺
重要文化財	応現観音図 紙本墨画	平安	大東急記念文庫
重要文化財	十王経図巻	五代-北宋	和泉市久保惣記念美術 館

重要文化財	宝篋印陀羅尼經・附宝篋 印經記	鎌倉	大阪・天野山金剛寺
重要文化財	青磁水注 越州窯	五代～北宋	京都国立博物館

<http://www.kintetsu-g-hd.co.jp/culture/yamato/exhibition/goetsukoku.html>

2)朝鮮的繪畫與工藝

2016/11/18-12/25

日本では古くから、中国とも日本とも異なる個性を持つ朝鮮半島の美術が愛好されてきました。現代においては馴染みが薄くなりつつありますが、峻厳な大山への畏敬の念、大胆かつ生命力に満ちた植物の造形、どこかユーモラスな人物・動物の表情など、この地域で作られた絵画・工芸品には、私たちの感性と響き合う要素が少なくありません。朝鮮の明澄な美意識をお楽しみ下さい。

14 立命館大学国際平和ミュージアム

絵葉書にみる日本と中国: 1894-1945

2016年10月1日(土)～12月11日(日)

日清戦争から第二次世界大戦終結までの約半世紀、日本は中国大陸への侵出を進め、やがて侵略戦争を起こして敗北するという結果に終わりました。この間、日本と中国は互いをどのように捉えていたのか、世界はこの時期の日本と中国をどう見ていたのでしょうか。日清戦争、日露戦争、義和団事件、21か条の要求、パリ講和会議、満州事変、日中戦争などの日本、中国に関する歴史的出来事が絵葉書及びその他の資料にどの様に描かれていたのかを追います。

本展は、世界的な絵葉書コレクターであるドナルド・ラップナウ氏の絵葉書コレクションの日本初公開となります。絵葉書を中心に、戦争柄の着物や風呂敷、情報宣伝に用いられた資料など、ラップナウ氏のコレクションからの出品を中心に展示を展開します。多くの課題を残す日中関係について考える機会となることを願い開催いたします。

<http://www.ritsumei.ac.jp/mng/er/wp-museum/event/special/index.html>

歐美

1. Nelson-Atkins Museum

Emperors, Scholars, and Temples: Tastemakers of China's Ming and Qing Dynasties

August 12, 2016 - July 09, 2017

Locations: Nelson-Atkins Building, Gallery 222

The paintings will be rotated after six months.

<http://www.nelson-atkins.org/art/exhibitions/emperors-scholars-temples/>

2. Los Angeles County Museum of Art

Alternative Dreams: 17th-Century Chinese Paintings from the Tsao Family Collection

Resnick Pavilion

August 7, 2016–December 4, 2016

Showcasing one of the finest collections of 17th-century Chinese paintings in the United States, *Alternative Dreams: 17th-Century Chinese Paintings from the Tsao Family Collection* presents works by many of the most famous painters of this period, including scholars, officials, and Buddhist monks.

The 17th century witnessed the fall of the Chinese-ruled Ming dynasty (1368–1644) and the founding of the Manchu-ruled Qing dynasty (1644–1911). It was one of the most turbulent and creative eras in the history of Chinese art. Composed of 130 paintings, the exhibition explores the ways artists of the late Ming and early Qing dynasties used painting, calligraphy, and poetry to create new identities as means of negotiating the social disruptions that accompanied the fall of the Ming dynasty.

Formed over a period of fifty years by Bay Area collector and dealer Jung Ying Tsao, the collection includes works by Dong Qichang (1555–1636), considered the most versatile Chinese artist of the last five hundred years, and major, previously unpublished works by Gong Xian, Fu Shan, Hongren, Bada shanren, Daoji, Wang Hui, and Wang Yuanqi.

<http://www.lacma.org/art/exhibition/alternative-dreams>

3. The Metropolitan Museum of Art

Show and Tell: Stories in Chinese Painting

October 29, 2016–August 6, 2017

Storytelling in Chinese pictorial art is the focus of the exhibition *Show and Tell: Stories in Chinese Painting*.

With some 100 works dating from the 12th century to the present, drawn mostly from The Met collection, it is presented in three sections. Each section demonstrates a different narrative mode: illustrations in multiple scenes, iconic single scenes, and stories revealed in inscriptions rather than images. The selected works tend to tell more than the storylines. The gallery featuring Emperor Qianlong's East Turkestan campaign displays European-style copperplate engravings alongside portrait painting and 18th-century weaponry. Contemporary works are included to demonstrate the genre's continuing vitality and relevance. Exhibition webpage:

<http://www.metmuseum.org/exhibitions/listings/2016/show-and-tell>

4. Freer/Sackler

1) CHINAMANIA

July 9, 2016–January 2, 2017

Chinamania, the craze for Chinese blue-and-white ceramics, swept London in the nineteenth century and still endures in the West. Contemporary artist Walter McConnell, inspired by his travels in China and the kilns as Jingdezhen, interrogates this phenomenon through his reinstallation of Kangxi porcelains similar to those originally displayed in the Peacock Room. The show also includes two monumental ceramic stupas from McConnell's The Theory of Everything series.

5. Huntington Library

“Gardens, Art, and Commerce in Chinese Woodblock Prints”

Sept. 17, 2016 – Jan. 9, 2017

MaryLou and George Boone Gallery

<http://www.huntington.org/WebAssets/Templates/content.aspx?id=22167>

6. Musée Guimet

Jade, from emperors to Art déco

19 October 2016 - 16 January 2017

From the emperors of China - great intercessors between Heaven and Earth -, who considered it a natural jewel, up to Cartier and the leading London and New York jewellers who sublimated it in the 20th century in the Art Déco creations inspired by the Chinese taste, jade remains this eternal and mythical stone, an object of fascination and absolute power for the sovereign.

Some 330 exceptional pieces will be assembled for the first time in France, coming from 15 prestigious national and international institutions including the Taipei National Palace Museum, which is lending almost a third of the works on display. A unique opportunity for the MNAAG to present this “beautiful stone”, “the image of goodness” for Confucius, and unfold the millennial history that, since the Neolithic Period up to the 1920s, has constantly pondered over its beauty, its virtue, its symbol and its prestige.

A major expression of Chinese civilisation and a many-faceted material, jade belongs to the most ancient history of Chinese art. A tablet from the Neolithic Longshan culture (2300 - 1800 B.C.) evokes the precious

lapidary who accompanied the emperor Qianlong all his life, for poems and seals to be engraved on the most beautiful jades of his collection.

The exhibition will strive to render jade since its origin and throughout its historical and geographic epopee and will touch on its symbolic, aesthetic, and scientific aspects. For the first time it will bring together, beside a selection of MNAAG jade works, two prestigious Chinese imperial collections never before shown together: those of the Taipei National Palace Museum and those of the Château of Fontainebleau, forming an exceptional ensemble, enriched by numerous loans from the Louvre, the Musée des Arts décoratifs, the Musée Jacquemart-André, the Muséum d'Histoire naturelle. . .

Contemplated in the form of simple polished tablets offered as princely gifts, animal motifs drawn from an imperial bestiary, bowls, brush pots on the theme of literati or, in a more warlike manner, formidably sharp blades, jade is not only prized by emperors of China, sultans of Samarkand, Mughal sovereigns

and Safavid shahs of Iran. For the Chinese it is more precious than gold and it enjoys an incomparable appeal in Europe, when Eastern jades appeared in the French royal collections in the 17th century, as attested by Cardinal Mazarin's exceptional bowl.

The "Chinese Museum" of Fontainebleau formed by the Empress Eugénie presents the last jades, especially of the Qing Period (1644 – 1911), to enter the collections of the French sovereigns and coming from the sack of the Summer Palace in Peking. Later, Art Déco took over all the themes and all the periods of Chinese art, respecting in each "fragment of ancient art" the natural glow of jade, rock crystal or lacquer.

To the delight of women of fashion, in the early 20th century the Maison Cartier wrote a new episode in the taste for China in Paris, raising fine jewellery to its greatest level of excellency. This is shown by the exceptional jewels worn by some celebrities in the early century: the countess and art patron Mona Bismarck, the American Barbara Hutton whose necklace made of 27 beads of jadeite, inlaid with platinum, gold, diamond and ruby, will be displayed in the exhibition.

The exhibition will close on a large Coromandel lacquer screen produced under the reign of the emperor Kangxi (1662 – 1722), a furnishing item much sought after by the 18th-century European aristocracy.

In a set design inspired by China, punctuated with openwork wood exhibition screens, jade, in the entrance gallery of the exhibition, will lend itself to the visitors' "touch": two stone blocks, one rough and the other polished, are available to visitors, so each one will be able to feel all the richness of the material, together firm, soft, smooth, veined.

The exhibition is made possible by the exceptional loan from the National Palace Museum of Taipei.

7) China Institute

Art in a Time of Chaos: Masterworks from Six Dynasties China, 3rd – 6th Centuries

September 30, 2016 – March 19, 2017

The Six Dynasties period, from the 3rd to 6th centuries, was one of the most dynamic periods in Chinese art history, akin to the European Renaissance in the impact it had on artistic creativity and the celebration of individual expression. Over the past twenty years, archaeological excavations have unearthed extraordinary works of art, forever altering scholarly understanding of this chaotic, four-hundred-year period of political upheaval, geographical division and civil strife. Not only was the Six Dynasties period a pivotal link in the historical timeline between the Han and Tang dynasties, but it is increasingly recognized for having laid the foundation for Chinese artistic standards, genres, subjects, and important themes that continue to define Chinese art today. This exhibition will present the artistic innovations and achievements evidenced by recent archaeological findings from both the Southern and Northern Dynasties across four major disciplines: ceramics, sculpture, calligraphy and painting. Each of these disciplines provides a different glimpse into daily and ritual life during this time. Through instability came great artistic innovation, resulting in the emergence of enduring subjects, genres, and themes. This exhibition will highlight these lasting

elements of Six Dynasties art, allowing visitors to see and better understand the trajectory of Chinese art that continues to today.

演講

1) 板倉聖哲教授

「朝鮮王朝における李郭派の系譜 - 新発見の山水画の紹介を兼ねて - 」

12月25日(日) 14:00

大和文華館の講堂

2) 故宮南院「日本美術之最展覽」系列演講

2016/11/26 10:00~12:00	「日本美術之最展覽」 中的佛像與佛畫	巫佩蓉	中央大學藝 術史所	副教授	日本藝術 學藝研	
2016/12/11 10:00~12:00	日本美術 5000 年~ 日本繪畫概論	田澤裕賀	東京國立博 物館	究部 調查研 究課長	日本繪畫	日文演講 現場口譯
2016/12/13 10:00~12:00	宇治萬福寺： 日本 17 世紀的中國風格再 復興	François Lachaud	法國遠東學 院	研究主 任	日本佛教藝 術與文化	英文演講 現場口譯
2016/12/13 14:00~16:00	日本江戶時代佛教畫師的 生活： 從伊藤若冲(1716-1802) 到狩野一信(1816-1863)	François Lachaud	法國遠東學 院	研究主 任	日本佛教藝 術與文化	英文演講 現場口譯
2017/01/07 10:00~12:00	日本佛教藝術賞析	潘亮文	臺南藝術大 學	副教授	日本藝術 佛教藝術	
2017/01/25 10:00~12:00	東山御物と雪舟	板倉聖哲	日本東京大 學	教授	東亞繪畫史	日文演講 現場口譯
2017/02/18 10:00~12:00	由「日本美術之最展」 看中日美術的表現差異	巫佩蓉	中央大學藝 術史所	副教授	日本藝術	
2017/02/18 14:00~16:00	日本傳統服飾概述	黃韻如	國立故宮博 物院南院處	助理研 究員	織品藝術 日本茶道	

研討會

International Conference on Buddhist Manuscript Cultures

January 20-22, 2017

Sponsored by the Buddhist Studies Workshop and Tang Center for East Asian Art Princeton University

The keynote lecture will be given by Matthew T. Kapstein (École Pratique des Hautes Études) and the conference discussant will be Charles Hallisey (Harvard University). Paper-givers and

respondents include Heather Blair (Indiana University), Paul Copp(University of Chicago), Agnieszka Helman-Ważny (Hamburg University), Susan Huang(Rice University), Bryan D. Lowe (Vanderbilt University), Christine Mollier (Centre national de la recherche scientifique), Nathalie Monnet (Bibliothèque nationale de France), Asuka Sango (Carleton College), Kiril Solonin (Renmin University), Brian Steininger (Princeton University), SUGIMOTO Kazuki (Shosoin Treasure House), Stephen F. Teiser (Princeton University), San Van Schaik (British Library), Zhanru(Peking University).

The conference is free and open to the public but pre-registration is required by December 15, 2016

<http://csr.princeton.edu/buddhistmanuscriptcultures2017/>

工作坊

1) 2016 文物科學檢測工作坊：金屬文物工藝技術與保存

會議日期：105 年 12 月 9 日（五）

會議地點：國立故宮博物院北部院區，正館 B1 多媒體放映室（臺北市士林區至善路二段 221 號）

青銅器與鐵器等金屬文物，乃人類歷史發展中所保留下來的重要物質文化遺產，不論是作為工具、武器、禮器或祭器等，都是其相應時代的科技產物，反映了彼時的工藝技術與物質文化。有關青銅類型與鑄造技術間的關係，向來受到關注，近年來也有許多利用科學檢測方法研究青銅文物，揭開古代鑄造技術史謎題的案例。而另外一方面，不論是銅質或鐵質文物，在歷經漫長的歲月後，皆會因為其本身的結構、組成特性，及與外在環境之作用等，產生氧化或還原化學反應，在器物上形成新的次生礦物或銹蝕情況，其中銹蝕的發生也嚴重影響了文物的形貌，對博物館或文物典藏單位的保存工作是一大挑戰。

不論是對金屬鑄造工藝技術的探索，或者對其銹蝕機制與保存方法的研究，現代科學檢測技術已逐漸廣泛地應用於相關的領域中。為了使國內考古、科技史、藝術史及從事保存工作等之相關人員了解科學分析技術在青銅與鐵器等金屬文物的應用情形，2016 年文物科學檢測工作坊乃以「金屬文物工藝技術與保存」為主題，邀請了中央研究院、國立台灣博物館、國立科學工藝博物館、國立故宮博物院以及國內大學相關系所之專家學者，進行專題演講，期能藉由經驗與研究成果的分享，提供國內相關領域人員在金屬文物的工藝技術、保存與科學分析技術方法等相互切磋交流之機會。

講者名單（依場次排序）

1. 岩素芬 / 國立故宮博物院登錄保存處 / 處長
2. 方建能 / 國立台灣博物館典藏管理組 / 副研究員
3. 飯塚義之(Yoshiyuki Iizuka) / 中央研究院地球科學所 / 研究副技師
4. 內田純子(Junko Uchida) / 中央研究院歷史語言研究所 / 副研究員
5. 陳東和 / 國立故宮博物院登錄保存處 / 副研究員
6. 泰納·沃克(Gordon Turner-Walker) / 國立雲林科技大學文化資產維護系 / 教授

7. 徐統 / 國立清華大學材料工程學系 / 退休教授
8. 黃振中 / 國立科學工藝博物館蒐藏研究組 / 研究助理
9. 余炳盛 / 國立台北科技大學材料及資源工程系/副教授
10. 連萬福 / 國立雲林科技大學文化資產維護系 / 教授

<https://www.npm.gov.tw/zh-TW/Article.aspx?sNo=04007529>

2)The Chinese Book as a Material Object

A four-day workshop at the Harvard-Yenching Library

May 16-19, 2017

With the sponsorship of the Bibliographical Society of America, the Fairbank Center for Chinese Studies, and Andrew W. Mellon Fellowship of Scholars in Critical Bibliography at the Rare Book School, we are pleased to announce a four-day workshop on the descriptive bibliography of the Chinese book. By bringing the study of Chinese editions into conversation with Western bibliography, this workshop will provide training in new methods for accurately analyzing, describing, and identifying the distinctive material characteristics of the Chinese xylographic print. Participants will be invited to engage actively in all the workshop sessions, which will be facilitated by Cynthia Brokaw (Brown University), Devin Fitzgerald (Harvard), and David Helliwell (Bodleian Library).

Day one will be dedicated to the comparative study of western bibliographic methods and the practice of the study of Chinese editions.

Day two will focus on the major features of printed books from the Song through the Qing.

Day three will focus on various rare-book catalogs and the production of accurate catalog entries.

Day four will be dedicated to the relationship between the digital text and the print book.

This workshop is free of charge, but participants are responsible for their own travel and accommodations.

We invite graduate students and junior scholars with interest in the history of Chinese printing to apply.

Please send a two-page statement of interest describing how this workshop relates to your research, and your CV (three pages max) to chineserarebooks@gmail.com by January 15, 2017.

Call for Paper

2017 台灣藝術史研究學會首次年會暨學術研討會

主辦單位：台灣藝術史研究學會

指導單位：文化部

協辦單位：國立臺灣藝術大學人文學院

會議日期：2017年3月25日（六）- 26日（日）

會議地點：國立臺灣藝術大學教研大樓 10 樓國際會議廳

壹、會議主題

2017 台灣藝術史研究學會首次年會暨學術研討會分為三個議題進行研討，探討議題如下：

一、大會主題：何謂台灣·藝術／美術·史？

六十多年前(1955年)，王白淵發表〈台灣美術運動史〉於《台北文物》3卷4期，台灣美術史的書寫於焉開展，標題中的「台灣」、「美術」、「史」這三個詞共同構成一個空前但不絕後的概念框架。但是，這並不是意味著台灣美術史的發展才開始，而是提示著台灣美術早已走過一段頗長的時間，足可以回顧的方式看待過往，當然，也是有塑造價值的意味。除了三個詞形成了「台灣美術史」，中間夾著「運動」一詞也隱含著另一層意義：台灣美術的發展乃沿襲著新文化運動的概念，說明美術發展的歷史和社會文化脈動息息相關。儘管我們如今比較常用「台灣藝術／美術史」，這也並非意味著台灣藝術／美術的定義與界線是清楚明白的。相較於以往，台灣藝術歷史的探討雖已頗為蓬勃，但我們仍然被一些根本問題圍繞著，亟待更深入地、反覆地探問，諸如：

- (一)何謂台灣藝術／美術？涉及了藝術的範疇之界定義，以及文化認同的問題。何謂藝術／美術歷程或歷史？觸及了藝術經典化與架構化的問題。
- (二)台灣藝術／美術史的過往，有何可觀察的軌跡或特性？
- (三)台灣藝術／美術發展如何界定？方法與方法論、史觀、史料、範疇、資料、架構、價值、意義、知識論、意識型態等等如何討論與釐清？
- (四)如何建立台灣藝術／美術史的論述(話語)權？學術上，台灣藝術／美術史的理论基礎與方法論在哪裡？
- (五)從本土、亞洲與全球視野衡量之，台灣藝術／美術史如何定位與出發？
- (六)如何書寫台灣藝術／美術史？台灣藝術／美術史的書寫危機是什麼？
- (七)我們期待台灣藝術／美術史是什麼樣貌？為誰而作？誰需要台灣藝術／美術史？在台灣社會能扮演什麼角色？
- (八)台灣藝術／美術史和藝術教育的關係？

把一個熟悉的詞再次拆解開來，是一種挑戰與喚醒。期待我們重新思考台灣藝術／美術史的內涵、意義及相關觀念，並逐漸形塑共識。非常歡迎從各種角度來辯證。

二、一般議題：台灣藝術美術中的人、事、物

台灣藝術史研究學會成立的宗旨為：提升台灣藝術史之價值與認同、建立台灣藝術史研究之平台與網絡、推動台灣藝術史研究風氣、促成台灣藝術史研究之在地化與國際化等。因此，研討會於年會時舉辦，主要在讓台灣藝術發展的討論有定期交流機制，成為台灣藝術史論述的家園—每年三月，台灣藝術史的討論將成為一個溫馨而讓人期待的傳統，凝聚共識與也容納異見。一般議題開放，不限任何藝術主題。

三、附加主題：(邀請中)

歡迎各藝術基金會、文化協會等與台灣藝術史研究學會合作，推廣各機構有興趣的議題。

貳、投稿方式

一、本會接受中文及英文稿件，敬請備齊下列資料將電子檔寄至 twahaservice@gmail.com 電子信箱（主旨為「2017 台灣藝術史研究學會首次年會暨學術研討會」投稿論文摘要）：

（一）投稿申請表一份（檔案名稱格式：投稿者申請表_您的全名），見附件一；

（二）論文摘要（檔案名稱格式：論文摘要全名_您的全名），見附件二，註：電子檔以 Windows Word 版本為原則，收到本單位電子郵件回覆函，即完成申請手續，未收到回覆請來電確認。

二、建議論文摘要包括：問題意識或重要性、研究方法或設計、研究發現、預期結論或建議之說明、五個關鍵詞為原則。中文摘要以 500-1,000 字為原則，英文摘要以 300 字為原則。

三、論文摘要截止日：即日起至 2016 年 11 月 25 日止。

四、審查方式：本會送請學者專家進行論文摘要審查，通過後始予發表。審查結果將於 2016 年 12 月 25 日於台灣藝術史研究學會臉書專頁公告，並以電子郵件通知投稿者。

五、論文全文截止日：與會論文得以中文或英文撰寫，論文字數中文以 8,000 至 12,000 字為原則，英文則以 6,000 至 9,000 字為原則。論文撰稿體例以 APA、MLA 為主，體例引用須前後一致。論文摘要通過審查者請於 2017 年 2 月 25 日前繳交論文全文電子檔，論文全文不得為已出版者，文責自負，本會不額外提供稿酬。

六、聯絡人：台灣藝術史研究學會 執行秘書吳小姐，電話：(02)22722181 分機 5047，行動電話：0937-968885，電子郵件：twahaservice@gmail.com。

七、研討會會議網址：<https://www.facebook.com/TaiwanArtHistoryAssociation/>（台灣藝術史研究學會臉書專頁）

八、研討會徵稿資料下載：<https://goo.gl/djoxwQ>

（內含徵稿故事及徵稿表格）

註：本會保有更動的權利，如有變動將會另行通知。

網路資源

1) 故宮 Open Data 專區

國立故宮博物院為提升政府資料開放品質、促進故宮資料在教學及個人賞析上之傳播，特別自 104 年起更新「故宮 Open Data 專區」，提供文物圖像及文物基本資料在教學用途範圍內免費下載。同時，也整合了原有文字性和數據性資料的資料集，也歡迎各界多加利用。

<http://theme.npm.edu.tw/opendata/>

2) 明實錄、朝鮮王朝實錄、清實錄資料庫

中央研究院歷史語言研究所與韓國國史編纂委員會合作

<http://hanchi.ihp.sinica.edu.tw/mql/login.html>

3) 「東アジア出版文化研究資料画像データベース」

東北大学東北アジア研究センター

<http://eapub.cneas.tohoku.ac.jp/eapub-db/>

4) 中国絵画デジタル・アーカイブ・プロジェクト

<http://cpdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/index2.html>

東京大学東洋文化研究所 東アジア美術研究室では、過去約半世紀に渡って国内外の中国絵画コレクションの悉皆調査を継続的に行ってきた。その成果が『中国絵画総合図録』正編5冊・続編4冊である。1982年に正編の刊行が開始され、2001年に続編が完結した。その対象は中国大陸の所蔵機関・個人及び台北故宮博物院を除く世界中の全ての地域に存する中国絵画である。図版入りの図録が出版される前に東洋学文献センター（現在の東洋学研究情報センターの前身）よりセンター叢刊の形で目録が出版されている。

この出版の基礎になった写真資料が全て東京大学東洋文化研究所に蔵され、調査カードの形で国内外の研究者に公開されている。

	第1回調査	第2回調査
4×5inch モノクロ ネガ	16,797 枚	8,953 枚
35mm モノクロ ネガ	18,312 枚	24,756 枚
35mm カラー ポジ	18,115 枚	17,292 枚

この中国絵画写真アーカイブは複写による写真資料を含めれば20万点に及び、その充実度は世界随一と称して過言ではない。

『中国絵画総合図録』正編の反響は非常に大きく、この形式が一典型となって、中国大陸（『中国古代書画図目』）・台北故宮博物院（『故宮書画図録』）それぞれのカタログ・レゾネの出版を促した。これらの出版によって世界中の中国絵画の所在情報が明らかにされたのであり、ここにいたって初めて世界に現在どのような中国絵画が何処にどのくらいあるか、その大きな全容が見えつつあるのである。それは、すなわち、美術史学に必要な学問の土台がやっとできたとも見なせよう。

当研究室及び附属東洋学研究情報センター造形部門では、1999年度、センター発足と同時に中国絵画デジタル・アーカイブ・プロジェクトを開始した。まずこれらの調査資料をデータベース化し新たな整理の基礎とすると同時に、調査の際撮影された作品のフィルム保存のためにデジタル化を行っている。又、これまでの蓄積をさらに拡大するために中国絵画の現地調査をその対象範囲を広げて継続的に行っている。

ここに試験公開する中国絵画所在データベースは、研究者のさらなる利便を図るため、蓄積された調査資料の書誌データに基づき作成したものである。現在では、正編・続編共にデータの検索が可能である。